長門の話題 Topics

長門湯本温泉観光まちづくりキックオフシンポジウム&第1回推進会議

長門湯本温泉の観光まちづくりがスタート

5月9日(火)、湯本観光ホテル西京で「長門湯本温泉観光まちづくりキックオフシンポジウム」が開催されました。

長門湯本温泉では公民一体となった観光まちづくりに着手しており、その第1弾として開催されたシンポジウムには、市民や事業者など約200人が参加しました。

この日ははじめに、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局の村上敬亮参事官から「地域仕事づくりへの挑戦」と題した基調講演が行われました。村上参事官は「従来の地域戦略では、人口減少に伴い右肩下がりとなる市場に適応するのは困難。地域商社などを通して顧客の輪の中に商材を入り込ませ、誰かに自慢したくなるようなミスマッチや話題性を売りにしていくことが必要」と話しました。

続いて行われたパネルディスカッションでは、大西市長、星野リゾートの星野佳路代表、まちづくり事業全体の推進に携わる有限会社ハートビートプランの泉英明代表取締役、湯本地区でカフェの開業を進める音信プランニングの大谷和弘代表、ながと物産合同会社の山本桂司COOの5人がパネラーとして登壇。大西市長は「もう1回来てみたくなるような温泉地、民間が投資をしてくれるようなまちをつくり、外から人が集まることで、仕事が生まれる好循環を生み出したい」と、星野代表は「地域の皆さんにも関心を持って、関わってほしい。集客を増やすというマスタープランの最大の目的を忘れずに、最後は『これで他の温泉地に勝てるのか』という目線で、完成度にこだわっていきたい」と話しました。

また、シンポジウムに先立ち、同会場で長門湯本温泉観光まちづくり第1回推進会議が開催され、事業推進の方向性や推進体制などが審議されました。今後、この推進会議は3ヵ月に一度開催され、専門家などでつくるデザイン会議で策定した事業の具体案について審議、決定し、長門湯本温泉観光まちづくりの推進を図っていきます。

▲5人のパネラーが登壇し、魅力ある温泉街について語った

▲「なぜ地方創生に取り組むのか」を語る村上参事官

▲事業推進の方向性や景観デザインなどについて審議

10回目の油谷大浦海岸ビーチクリーン

豊かな海をいつまでも

5月14日(日)、油谷大浦海岸でビーチクリーンが開催され、約800人が参加しました。

開会式後に海岸へ移動した参加者は、ペットボトルや缶、ロープ類などのごみを拾いながら歩き、最後は一列に並んで、ごみの入った袋をリレーして集積場所まで運びました。約1時間の清掃により、今回は可燃ごみ3.45トン、不燃ごみ0.69トンの合計4.14トンが回収されました。

大浦漁港前では、「母なる海を守る会」によりヒラメの稚魚放流や抽選会が行われたほか、「ご当地ごはん屋台村」や「おさかなタッチングプール」が設けられ、多くの人でにぎわいました。

新たに3人の地域おこし協力隊が着任

それぞれの特技で地域振興を

5月1日(月)、新たに3人の地域おこし協力隊が着任し、辞令交付式が市役所で行われました。着任したのは観光担当として村尾悦郎さん、木育担当として岡真由美さん、宇津賀地区担当として一ノ枝亮輔さんの3人です。

辞令交付式では大西市長から「これまで7人の協力隊員が活動してきました。今回は地域への配属のほかに観光、木育といった事業別の配置を行っており、新しい協力隊員像ができると期待しています。それぞれ目標に向かってがんばってください」と激励の言葉を述べました。

▲（左から）一ノ枝亮輔さん、岡真由美さん、村尾悦郎さん

▲地域住民や漁協関係者、大学生など市内外から約800人が参加

レノファ山口と県・市町が協定締結

スポーツや文化、観光で連携

5月13日(土)、山口市の維新百年記念公園陸上競技場で「オール山口 Jリーグで地方創生、まちづくりパートナーシップ包括連携」協定締結式が行われました。

これは、J2サッカークラブ「レノファ山口FC」を運営する株式会社レノファ山口と、オフィシャルパートナーのイオングループ、ホームタウンの山口県と県内19市町による協定で、今後はスポーツや文化、商業や観光の振興など、合計12項目のまちづくりを連携して行います。またこの日は、ホームタウン自治体のPR活動や応援活動を行う「ご当地所属選手」も発表され、長門市はフォワードの岡本英也選手（背番号7）に決定しました。

▲山口県と県内19市町が出席し、包括連携協定を締結

▲レノファ山口の選手をハイタッチで迎える

危険ため池を点検パトロール

災害を未然に防ぐ準備を

5月10日(水)、災害を未然に防ぐことを目的に市内の危険ため池の点検パトロールが行われました。

危険ため池とは、決壊した場合に人命や人家、田畑、公共施設に影響を及ぼす恐れがあるもので、市内に12ヵ所あり、この日は工事中の2ヵ所を除く10ヵ所の危険ため池で浸食や漏水状況、通水能力、破損の状況を点検しました。

油谷蔵小田にある後ヶ迫ため池では、県や市など行政関係者、ため池管理者など約30人が参加してパトロールが行われ、堤体や洪水吐、取水口などの状況を確認後、点検状況について管理者に説明をしました。

▲危険ため池の状況を確認する県や市の関係者

クルーズ船「飛鳥Ⅱ」が二度目の寄港

歓迎の催しでお出迎え

5月12日(金)、国内最大のクルーズ船「飛鳥Ⅱ」が仙崎港に寄港しました。仙崎港への寄港は、平成28年4月23日に続き二度目となります。

船内で行われた歓迎セレモニーでは、大西市長が「ようこそ長門市へ。今日は歓迎イベントとして、やきとりの振る舞いや足湯を用意しています。元乃隅稲成神社や金子みすゞ記念館、そして長門市民のやさしさにふれ、素晴らしい1日としてください」と歓迎の言葉を述べました。

その後、元乃隅稲成神社が描かれた入港記念盾や、市内在住のイラストレーター、尾崎眞吾さんの描いた記念絵画などの贈呈が行われました。

▲約450人の乗客を乗せて寄港した「飛鳥Ⅱ」

一日だけのムカツク食堂

受け継ぎ、伝えたい母の味

4月30日(日)、油谷向津具のパタ屋で「一日だけのムカツク食堂」が開かれました。ワカメとキャベツの梅肉和え、かし椀、旬の魚や長州どりの胸肉の揚げ物、けんちょう、向津具棚田米など地元食材を使った食事が提供され、参加者は「おいしい」と笑顔で食事を味わっていました。

▲地元女性グループが調理した食事を味わう

第5回深川みなと元気まつり

住民の手で深川地区を元気に

5月3日(水)、山口県漁協湊支店魚市場周辺で「第5回深川みなと元気まつり」が開催されました。会場にはやきとりや焼きガキなどの出店のほか、もちまきやビンゴ大会、わんぱく相撲や長門女尻相撲が行われ、多くの来場者で賑わいました。

▲大人気だったビンゴ大会

長門の人 People

旬な人

地域産品の魅力をアートで演出。

杉本 朋美さん

（ハンドメイド作家「Ranunculus」／アトリエ：旧俵山中学校）

平成28年秋、ジビエの普及を進める地域おこし協力隊の中野博文隊員の発案で、害獣駆除の副産物として得られるイノシシやシカの角・牙などをアート作品に使用し、地域の魅力発信に役立てようとする「けものみちPROJECT」が始まりました。

革細工を扱う田島大幹さんとともにアーティストとして参加した杉本さんは、アトリエとなる旧俵山中学校の一室で打ち合わせを重ね、中野隊員が加工した材料を女性向けのピアスやイヤリングに仕上げています。

今年3月に出店した市内のイベントでは、用意したアクセサリーがほぼ完売。杉本さんは「手に取っていただいたお客さんと魅力やかわいさを共有できた瞬間が一番幸せ」と振り返ります。

今年は県外のイベント出店を目標に、都市部の女性をターゲットにしたアクセサリー作りを研究中。今後も同プロジェクトでは、魅力ある地域産品をさまざまなアートで演出し、発信する活動を展開していきます。

▲アトリエで中野隊員（中央）、田島さん（右）と開発の打ち合わせ

日置つつじ祭り in 菅無田公園

祭りで地域の魅力を再認識

地域の自然を生かした交流の場をつくろうと4月29日(土)、日置の菅無田公園で「日置つつじ祭り」が初開催されました。

会場ではサザエのつぼ焼きやうどんなどの露店が並んだほか、パンやベーコン、花や野菜の苗などが販売されました。約1万8千本のキリシマツツジが咲き誇る「いろどりの丘」では、鼓波会の太鼓演奏やもちまきが行われ、つつじ観賞とあわせて楽しむ来場者も見られました。

主催した日置まちづくり協議会の上田洋一会長は「今日は晴れて本当に良かった。イベントを通して、来場者のみなさんにふるさとの良さを再認識してもらえれば」と話しました。

▲地域の自然を生かした交流の場をつくろうと企画された

▲いろどりの丘で、鼓波会が太鼓演奏を披露